

令和4年度第5回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 令和4年8月24日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 大学院講義室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）  
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）  
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）  
大野 元（岐阜県産婦人科医会 理事）  
石山 俊次（石山泌尿器科皮膚科）  
オブザーバー：市原 拓（岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長）  
事務局 : 石塚 敏幸（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）  
今尾 幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）  
岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題 （進行：加藤委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項
- (4) 情報提供（月番委員専門分野から）
- (5) その他（感染症対策推進課から）

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○今冬期のインフルエンザの流行について

〈事務局から〉

・新型コロナウイルス感染症の出現以降、ほとんど認められなかったインフルエンザの患者報告数が最近わずかながら増加してきており、今冬期に数年ぶりに流行する可能性も考えられます。また日本と同様に数年間流行の無かったオーストラリアでは、今シーズン例年より2～3か月程度早い時期に流行しました。

○2022-2023年シーズンのインフルエンザ対策について

〈委員から〉

- ・この数年、国内でインフルエンザは流行しておらず、例年に比べて抗体の保有率は低いと考えられる。昨年や今年のRSウイルス感染症のように、例年とは異なる時期に流行してもおかしくないのではないかと。
- ・ワクチンや検査キットなど、その対策が整わないうちに流行が始まる可能性もある。